

令和4年度第16回士別市教育委員会会議録

1. 日 時 令和5年3月13日（月）午後1時30分～午後3時45分
2. 会 場 教育委員会会議室
3. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 三 上 正 洋
職務代理者 馬 場 千 晶 学校教育課長 須 藤 友 章
委 員 加 藤 洋 之 合宿の里・スポーツ推進課長
委 員 多 田 千 鶴 坂 本 英 樹
社会教育課長 武 山 鉄 也
学校教育アドバイザー 石 橋 克 敏

欠席 山 田 敦 久 委員

4. 議 件（発言者、議事要旨及び議決事項）

1 教育長挨拶

日一日と春が近づいている印象がある。先週金曜日には、中学校の卒業式が行われたところであり、後ほど各校の状況をご報告いただき、委員会で共有したいと考えている。今週末には小学校の卒業式が挙行されることから、祝辞のたたき台を示すので、各委員に推敲いただきたい。

本日は、今年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の本市における分析についてご意見をいただきたい。

また、本年4月に一部組織機構の改編を行うこととなっており、教育委員会関連では朝日支所の改編にも伴う形で、地域教育課のスポーツ部門については合宿の里・スポーツ推進課と完全統合し、一方で、サンライズホールや公民館活動等に関わっては、新たに「地域文化課」としての部署が設けられるなかで対応することになる。

本日もよろしく願います。

2 議事について

○中峰教育長 進行

議案第43号 「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における士別市の分析結果」について説明を求める。

○石橋アドバイザー

今年度も、小学5年生と中学2年生を対象に実施した。学校ごとの結果については、序列化につながるなどにも配慮し公表しない。全体的に小学校の結果は全国平均を上回っているが、中学校の結果は、全道・全国よりも低い状況にある。全国の平均を50とし、T得点を用いて偏差値を出して比較した。

○多田委員

コロナ禍による影響は生じているか。

○馬場職務代理者

合宿選手による指導なども行っているの、50メートル走だけでも良い成績になってほしいと思う。

○中峰教育長

何かのきっかけで変わってくることもある。体を動かすこと自体は好きなはずだが、もっと楽しめることを仕掛けていく必要があると思う。

○加藤委員

50メートル走やシャトルランなどは、走らされるばかりで嫌になるのではないかと。楽しみながらやれることや、歓びにつながることもあるとよい。

○石橋アドバイザー

応援されると、やめたくても続ける気持ちになる場合もある。

○多田委員

やはり、様々な場面で応援の声があれば違ってくると思う。

○加藤委員

翔雲高校の「ウオーク&ラン」が廃止されるとの話を聞いた。全校で取り組んでいた行事であり残念に思う。運動部に所属している生徒にとってはノルマのようなものがあり、プレッシャーだったかもしれないが、やめてしまうのはもったいない。

○中峰教育長

しんどさもあるだろうが、走りきったり、歩ききったりすることで、達成感が得られるなど、プラス面も大きいのではないかと思う。

○加藤委員

自分にとってはいい思い出になっている。

○中峰教育長

全国体力テストの本市分析結果については、再度、詳細を確認し、年度内に公表する。

○中峰教育長

議案第44号 「士別市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則」について説明する。

先ほどの挨拶でも触れたとおり、組織機構の改編に伴い、地域教育課の体制が変わることになるが、朝日地区でのサービス低下にならないよう、公民館やサンライズホール担当として職員を配置する。また、機構の改編に関する以外にも、規則の内容そのものが誤っていた部分があり、あわせて改正するものである。

○中峰教育長

議案第45号 「士別市教育委員会公印規則の一部を改正する規則」について説明を求める。

○三上部長

「士別市教育委員会公印規則の一部を改正する規則」についても「地域教育課」の名称が「地域文化課」に変更されたことに伴い、改正が必要となったものである。

○中峰教育長

どこまでの範囲で公印に関する規則が必要なのかを全庁的に確認する必要がある。

○中峰教育長

議案第46号 「士別市公民館条例施行規則の一部を改正する規則」および、議案第47号 「士別市家庭教育推進事業実施要綱の一部を改正する要綱」について説明を求める。

○武山課長

「士別市公民館条例施行規則」についても「地域教育課」の名称が「地域文化課」に変更されたこと

に伴い、改正が必要となったものである。「士別市家庭教育推進事業実施要綱」について、文言の整理を行ったが、本来、事業の実施主体が中央公民館から社会教育課に変更された際に改正すべきものであった。

○中峰教育長

家庭教育に関わっては、小学校の一日入学の際の啓発をはじめ、家庭教育通信の発行や生活リズムチェックシートなどに取組んでいる。令和5年度予算では、講座やセミナーの開催経費として3万円ほど計上している。子どもたちの地域との関わりでは、南小校下でのあいさつ運動や、南進自治会でのラジオ体操の取組によって、関係が深まっている。朝日地区でも、ラジオ体操会が行われている。今後も、知恵を絞りながら家庭や地域での子どもたちの健やかな育みを促進していきたい。

○中峰教育長

議案第48号 「士別市立学校修学旅行実施基準」について説明を求める。

○須藤課長

「士別市立学校修学旅行実施基準」は、合併前の旧士別市において教育長の通達という形で定められていたものである。近年、学校によって宿泊研修の行先や行程等に大きな相違が出ていることから、市教委として一定の基準を設けることとした。

○中峰教育長

宿泊研修にインターンシップ体験を盛り込み、札幌まで行っている学校もあるが、本来の宿泊研修の目的から外れている部分もあると言わざるを得ない。インターンシップ体験にあたっては、まずは地元を第一に考えてもらいたいとも思うところ。当該学校では、他の学校が修学旅行で見学するような場所を宿泊研修先として、尚且つ日帰りで行ったこともある。短い日程であまりにも遠隔地に行くことで、生徒の身体的負担も大きい場合がある。全て否定するつもりはないが、例えば、東高校では上川町に体験活動に行きつつも、朝日の山村研修施設に宿泊するというような行程を組んでいるところでもある。

○多田委員

自分の子どもはインターンシップとして札幌の専門学校に行ったが、希望する大学や短大、専門学校がない場合でも、どこかは選択しなければならないことになっている。良いところもあったのかもしれないが、なぜ札幌まで行く必要があるのか疑問に思った。

○加藤委員

日帰りで白老に行く聞いて、大丈夫なのかとも思った。将来希望する職業が決まっており、その道に向かうための学校等を早いうちに見たいというような子どもにとってはよいだろうが、高校に進学してからでもオープンキャンパスなどの機会があり、中学校のうちから行くことはどうなのか専門学校の関係者が学校に来て説明してくれるならよいが、わざわざ出かけていくべきかと思う。宿泊研修は、子どもたちが一緒に宿泊して思い出を作る機会になってほしい。

○馬場職務代理者

基準的なものがないと、他の学校も追随してしまうなど、エスカレートする可能性もあるので、ある程度の基準はあった方がよいと思う。

○中峰教育長

実際にそういう傾向も生じている。インターンシップについては、まずはこの地域の中で、どんな仕事があるのかや人のためになる仕事を知り、体験して学ぶことが大切だと考える。

○加藤委員

少人数の学校でも、修学旅行には貸切バスを使用することができるのか。

○中峰教育長

小規模校の場合、JR を利用してきた例もあるが、この3年間は、新型コロナウイルス感染症対策としてバスを使うことが可能になった。この場合、北海道が実施している教育旅行支援事業を活用している。

○加藤委員

バスの場合は、急な時間変更など、予定外のことにも対応可能だが、JR の場合は急なスケジュール変更は不可能に近い。コロナ禍が収まっていくことで補助が受けられなくなることは、痛し痒しである。

○中峰教育長

交通手段によって、経費も変わる。以前の高速バス事故や、軽井沢スキーバス事故などの発生によって、運行管理基準が変更されるなどの中、単価が大幅に上昇した。一方、多寄小と温根別小は、合同で、一年おきに修学旅行を実施している。

○加藤委員

人数がいれば何とかなるが、少人数であっても総額は同じになるのは、バス事業者も営利企業である以上しかたないところであり、どうしても費用負担または交通手段に差が出てしまう。GIGA スクール構想の ICT 端末入替の件でも感じたが、教育の格差の実情について訴えていかなければならない。

○中峰教育長

小規模校でのあり方についても考えていく必要がある。

○加藤委員

ICT は都会と田舎の格差を埋めるためのツールだが、様々な部分で埋まっていないのが実情である。

○馬場職務代理者

いずれ、市内の学校全体で、修学旅行に行くという時代が訪れるかもしれない。

○中峰教育長

議案第 49 号 「士別市教育委員会所管事務各種審議会委員の選任」について説明を求める。

○武山課長

令和 5 年度からの各種審議会委員については、議案のとおりであるが、各種団体から推薦される方については現段階で決定していないため、後日あらためてお知らせする。

3 その他

◇入学式の日程について

後日調整

◇令和 5 年度予算審査について

別紙資料のとおり

◇当面する今後の日程について

三上部長説明。

○中峰教育長

委員の皆さんが出席した各中学校の卒業式について報告願う。

○多田委員

士中では、マスクを外しても構わないことを周知したとのことだが、ほぼ全員が付けていた。式自体は良い内容だった。

○馬場職務代理者

南中では、入場時にはマスクをしていない子の方が多かった。合唱の時にはアナウンスがあり、マスクを着けて唄っていた。余談になるが、体育館内のスピーカーなど、あまり音響が良くないと感じた。式はスムーズに進行され、在校生も出席していて良かった。泣いている生徒もいるなどの中、久々に感動的な卒業式だった。女子生徒のマスク着用率が高かった。

○加藤委員

上中は、生徒自身がたちがマスクを着用して出席することを決めたとのことである。合唱の際もマスクのまま唄っていたが、記念撮影の時は外していた。あいにくの天気であったが、一体感のある式だと感じた。

○中峰教育長

山田委員とともに、朝中の卒業式に出席した。卒業生が母親に花を手渡し、メッセージを伝える場面があったほか、全校合唱も行われた。現在の担任と亡くなった担任の双方に、生徒から呼びかけるシーンもあった。卒業生が退場する際には、それぞれが自分の思いを発表して会場をあとにしていた。マスクは、合唱の時だけ着用していた。

○馬場職務代理者

すべての学校で校歌を唄って卒業することができてよかったと思う。

午後3時45分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者

中峰 野 彰

会議録調整者

須藤 友章